

コロナ臆断

市川 浩

一月下旬中國武漢發生のコロナウイルス問題擴大して、既に九ヶ月を閲す。この間外出自肅して主として電視視聽を通じて臆断せる事記して、各位の御批判を賜はりたく、左の如し。

先づ第一に此のウイルスは其の全貌未だ明らかならざるも、經驗的に解明せられつゝあり、之を假説として嚴密に立證を行ふが科學的態度なるべし。以下に其の實例を提示せむ。

一、冬季に於ける、流行性感冒（流感）との重複大流行は防止可能

手洗ひの勵行、マスクの着用、社交距離の確保、所謂三密の回避などコロナ対策は全国的に周知徹底せられ、其の効果も漸く現はれつゝあり。されどこれらの対策流感を始め他の傳染病対策としても夙に要請せらるゝも實施率は極めて低く、特に流感死亡者数はコロナを遙かに上回れりと云々。若し、今冬流感感染激減せばこれら対策の孰れが効果顯著なるや、統計的解析可能の態勢をこそ早急に講ずべけれ。

二、検査體制

PCR 検査の擴充は當初より課題として取上げられ來たれるが、結果判明まで時間がかゝり、數日前の結果なむ判明するも、現在を確定し得ざるを缺點とす。更に一部には日本の感染者寡きは検査寡きの故ならずやの疑念あり。尤も之は死者數寡き實績により、完全に否定せらるれど、未だにPCR擴充を最優先すべしとの論なほ強し。思ふに、患房發生の

一因に、「口角沫を飛ばし」ての會食歡談あり。此の飛沫にコロナ菌ありや無しやの簡便検査こそ望ましく、現在の唾液検査の精度今一つの感否めず、之が改善急がるべし。

三、數値處理

今回の行政活動にて、例へば重症患者用病牀數が國と都で定義が異なる、或いは發生患者數の報告が手書き電送式など、餘りに初歩的問題が未解決の儘長年放置せられたる事判明す。一例として所得税の確定申告に電腦納税を奨めらるゝも、國稅廳の申告系の購入を

要す。未購入の理由は、Exce、「桐」等民間の表計算系との互換性、更には毎年の税制

改正を反映する電網便宜等サービス懸かりの項目多し。菅新内閣はデジタル廳の新設を公表す。

之まで晝間の電視畫像など見る事寡かるも、自宅に居らば自然に目にするに至り、政治的中立を標榜する客員解説者の言論を聞きてつい鵜呑みにせむ事を懼る。世の現役人は職業柄常に客觀的判斷を要すと雖も在宅勤務ともならば、視聽率最優先のためか具體的反論も無き儘、電視局の方針に盲導せらるゝ危険性大なるべし。事實八月十日頃の番組にて、新型コロナウイルス感染者數減少捗々しからずとて、補償を含む緊急事態宣言の再發出と國會の開催を求め、之を實施せざる政府の無爲無策を殆ど一方的に攻撃する番組ありて後、同十二日のNHK輿論調査は内閣支持率 52% に急落す。無論報道の自由は守らるべく、問題は視聽者の良識次第なるも、前の大戦前、日米戦はば日本よりの絹輸出跡絶え、米國婦人用の靴下品薄となり、厭戦氣分蔓延して、日本の勝利となるとの言あり、無論其の反論など皆無なりけるを想起す。

(令和二年九月十七日受附)